



66 中期経営計画達成に向けた
収益力強化と
バランスシートマネジメントにより、
目標リターンの達成と
安定的なキャッシュ確保に努めます。

取締役専務執行役員
法務部、企画部、管理部、資材部 各担当
関本 正毅

2023年度業績と中期経営計画の進捗

2023年度は、セメント事業が販売価格の値上げ効果とエネルギー価格の低下により損益を大幅に改善したことから、連結営業利益は黒字を確保することができました。キャッシュ・フローについては、業績回復とともに、政策保有株式の売却を積極的に進め、フリーキャッシュ・フローがプラスとなったことから、必要な投資、安定配当を継続した上で、前年度膨らんだ有利子負債の返済を進め、財務の安定性の確保を図っております。

中期経営計画については、2023年度が1年目ですが、損益は黒字化したものの、2025年度の目標利益に対しては、更なる利益の上積みが必要な状況です。セメント事業での適正価格の確保と化石エネルギー代替の利用拡大、新材料事業での設備能力増強による収益の拡大を図り、目標達成に向け進めてまいります。

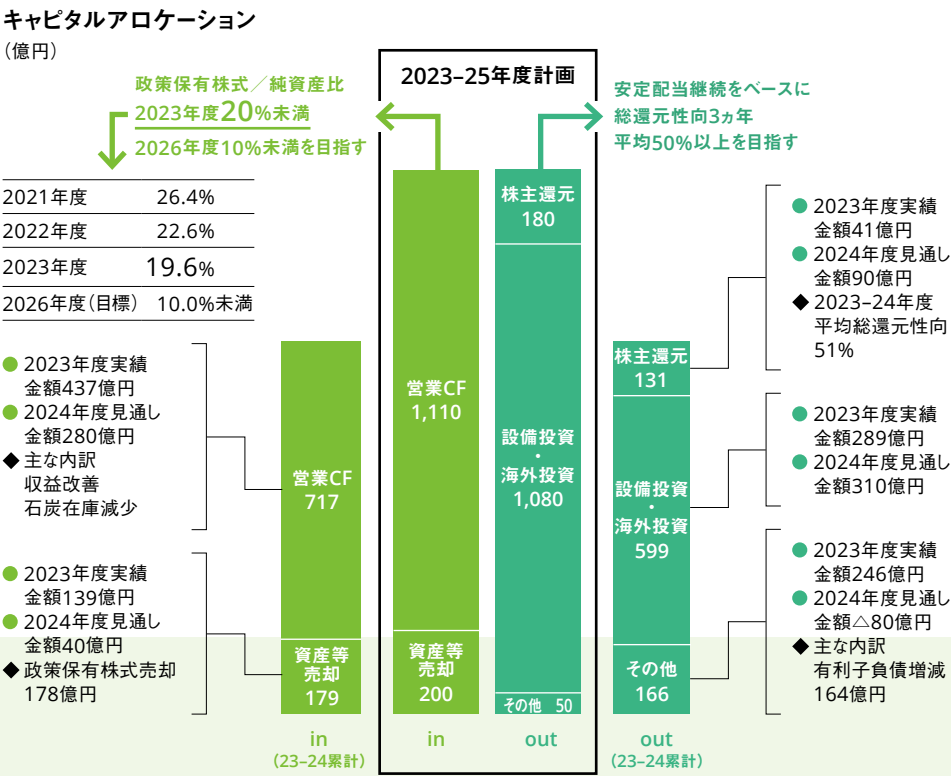
キャピタルアロケーションについて

「2023-25年度中期経営計画」の財務方針は、事業拡大により利益を最大化させるとともに資産圧縮も進め、獲得したキャッシュを持続的成長の為に投資と株主還元バランスよく充てることとしておりますが、進捗状況については以下の通りとなります。

2023年度の営業キャッシュ・フローは、セメント事業での収益改善や石炭在庫の減少などにより、前年度から大幅な改善となりました。2024年度以降も引き続き収益改善に取り組み、キャッシュ・フロー創出に努めてまいります。資産売却は、政策保有株式の売却を計画より前倒しで進めており、

政策保有株式の純資産比率は、19.6%と1次目標である20%未満を達成しました。次の目標に向け2024年度以降も引き続き縮減を進めてまいります。

株主還元は安定配当の継続に合わせ、2024年度に50億円の自己株式取得を実施しております。これにより2023-2024年度の2ヵ年平均の総還元性向は50%以上となる見込みです。2025年度についても利益水準を見ながら株主還元の充実を図ってまいります。投資については、維持更新やカーボンニュートラル投資、成長投資を計画通り進めております。



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社の株価はCO₂多排出セクターに対する厳しい評価や、セメント需要の減少やエネルギー価格、為替などの影響による利益水準の低下により2017年度以降はTOPIXを大幅にアンダーパフォームしている状況です。PBRも近年0.6～0.7倍程度に留まっております。今後、以下の施策によりROEを向上させ、株価・PBR改善に努めてまいります。

「2023-25年度中期経営計画」ではCAPMを用いた株主資本コスト、過去の株式益利回りやエクイティスプレッドなどを総合的に勘案し、目標リターンをROE8.0%以上、「SOC Vision2035」ではROE10%以上としました。

目標達成に向け、中期経営計画や「SOC Vision 2035」に掲げる施策を確実に実行してリターンの最大化を図っていくとともに、資本の最適化を徹底すべく次の4項目のバランスシートマネジメントを実施してまいります。

- ① ROIC経営導入による資本コストとリターンの重点的な管理
(ROIC目標値 … 「2023-25年度中期経営計画」:5.0%以上、
「SOC Vision2035」:6.5%以上)
事業部門別ROIC目標の設定
- ② 将来の環境投資に備え、財務の安定性はDEレシオ0.5をベースに維持
- ③ 政策保有株式については2026年度に純資産比率10%未満とするべく、引き続き縮減
- ④ 株主還元については中期経営計画3ヵ年平均総還元性向50%以上とし、安定配当をベースにカーボンニュートラルおよび成長分野への投資と両立

併せて指名・報酬委員会の活用や取締役会実効性評価など、ガバナンスの充実にも取り組んでまいります。